

高齢者の生活の支えとなる年金だが、保険料を支払ったことを本人が知らなかったり忘れたりしていて未請求や未受給となっているケースが少なくない。こうした支給漏れの年金に詳しい社会保家労務士の柴田友都さん（78）が、戦中戦後の混乱期の年金記録の大切さについて寄稿した。

◇…………◇

ご先祖様をしのぶお彼岸と重なった先月のシルバークウィーク（大型連休）。苦勞して働いたご両親や祖父母に思いをはせた人もいたと思います。

全国には、まだ誰のものとも特定できない年金記録約1650万件と、故人の記録約790万件の計約2440万件が埋もれています。この中でも、特に戦中戦後の年金については「既に過去のこと」「年金のことはよく分からない」などと人ごとに感じている人も多いでしょう。

しかし、戦時下から戦後にかけての厚生年金は大変価値があり、埋蔵金にちなんで「埋蔵年金」といっても過言ではありません。ご家族の年金を掘り出す一助となることを期待し、当時の年金の価値を解説します。

厚生年金の前身である労働者年金保険は、アジア太平洋戦争中の1942（昭和17）年6月に始まりました。その頃は当然、高

度経済成長や戦後のインフレより前の時代で、戦前なら東京で働く男性の月給が約25円、女性は約15円といったこともありました。戦後も1957（昭和32）年の小学校教員の初任給が月約8千円だったという資料があります。

これだけ聞くと、昔の厚生年金の加入記録が見つかって「たいしたことない」と思ってしまうかもしれません。しかし実は、戦時下から57年3月までの記録が令和の世に発見されると、1カ月当たりの給料が現在の約15万円相当とみなされて計算されるのです。年金額の計算方法は今と異なり、年齢により多少の差がありますが、1年分の加入記録が見つかった場合は年約5万円の受取額となります。

私に調査を依頼した人に、86歳で亡くなった長野県在住の男性の家族がいました。この男性は戦時中の42（昭和17）年6月から45（同20）年8月まで約3年間、東京の中島飛行機武蔵野製作所で働いていました。その時の年金記録を見つけた結果、未支給の年金額は年約16万円でした。受給開始年齢の60歳までさかのぼった約26年分の総支給額は利子などを含め約440万円となりました。

諏訪地方の紡績会社で挺身隊として働き、92歳で亡くなった女性の家族からも相談を受けました。この方は厚生年金が女性に

も適用された44年10月から45年8月の終戦まで加入しており、支給額年約4万円の価値となりました。受給開始年齢の65歳までさかのぼった年金額は、27年間で計約110万円でした。

条件もありますが、故人の年金は3親等内の遺族が代わりに受け取れるケースがあります。最近ではお孫さん（2親等）からの相談や、ご夫婦からそれぞれの両親の調査を依頼されることがあります。さかのぼった厚生年金だけでなく依属年金も含めると1千万円近く支給された事例もありました。

戦時中から戦後にかけて、親御さんがどんなところで働いていたか振り返ってみましょう。証拠となる書類がなくても、伝え聞いた記憶があれば手がかりとなります。まずは、ご家族の年金が埋もれたままになっていないか、チェックシートⅡ表Ⅱで確認しましょう。

私が調査して親御さんの戦中戦後の年金記録が見つかった相談者の方は、「こんな大金が振り込まれるとは思いませんでした」と驚かれます。親御さんへの感謝と共に「物価高の厳しい時に非常に助かる」という声が届いています。1件でも多くの「埋蔵年金」が見つかり、少しでも希望をもっていただけなら幸いです。

しばた・ゆういち 社会保険労務士。1948年、東京都生まれ。金融機関を経て96年、埼玉県川口市に産友社会保険労務士事務所を開設。全国で年金相談や調査を続ける。同市在住。連絡先は同事務所（〒333・0802 川口市戸塚東4・25・4、☎048・296・2075）。

支給漏れ年金チェックシート

（柴田友都さんが長野県向けに作成）

☐	戦時中、軍需工場に徴用、挺身隊で勤めたことがある （長野県内のほか愛知県、東京都、神奈川県などの工場の例が多い）
☐	戦時中や戦後（昭和20年代）に民間の会社などに勤めていた
☐	兵役前に会社に勤めていた
☐	陸軍造兵廠、海軍工廠、被服廠などに勤めたことがある （豊川海軍工廠、名古屋陸軍造兵廠、東京第一陸軍造兵廠、横須賀海軍工廠など）
☐	配給品を扱う商品や組合に勤めたことがある （酒、みそ、しょうゆ、木材、繊維などの統制会社）
☐	亡くなった夫や亡き両親が戦中や戦後に会社に勤めていた
☐	鉱山、炭鉱に勤めたことがある
☐	1959（昭和34）年1月以前に農業会（農協）に勤めたことがある
☐	日本年金機構より「あなたのものと思われる年金記録があります」という手紙が届いたり、年金事務所で「亡くなった親の年金と思われる記録があります」と言われたりしたことがあるが、分からないままになっている

1カ所でも該当すれば年金をもらえる可能性がある

「埋蔵年金」

全国に2440万件も

2026年（令和8年）10月6日火曜日
信濃毎日新聞

記事の見出しおよび本文をレイアウト
変更の上、掲載しています。